

当社ホームページのご案内

トップメッセージ、事業案内、IR情報など、各種情報を掲載しております。

ホームページアドレス <http://www.mitachi.co.jp>



HOME 会社概要 事業案内 IR 採用情報  **三ツ子産業株式会社**
<http://www.mitachi.co.jp>

お客様と仕入先様の夢と未来をつなぐ架け橋を目指して

三つで立つ。。。三位一体の精神



「ガールの水道橋」
 ローマ帝国の時代に生命をつなぐ水を運ぶ大切な使命を果たした「ガールの水道橋」。2000年の時を超えて往時の卓越した技術力を今に伝えるこの橋をモチーフに、当社の社章は生まれました。そこには、いつまでもお客様と仕入先様をつなぐ架け橋でありたいという思いが込められています。

新製品情報

 **超小型PCボードコンピュータ**

- ・組込用途に应用が利く超小型寸法
- ・ファンレス・ディスクレスによるメンテナンスの軽減

新着情報

2005年01月14日	平成17年5月期 中間決算短信(連結)を掲載いたしました。 平成17年5月期 中間決算短信(個別)を掲載いたしました。 平成17年5月期 中間決算説明会資料を掲載いたしました。
2004年12月22日	中間および通期の業績予想の修正に関するお知らせを掲載いたしました。
2004年10月12日	組込用超小型コンピュータボードMIU Cardの製品案内を掲載いたしました。
2004年10月06日	平成17年5月期 第1四半期 財務・業績の概況を掲載いたしました。
2004年09月01日	西東京営業所を東京支店に統合いたしました。 今回の統合は東京地区の営業力強化を目指しており、統合により顧客サービスの向上、業務の効率化が図れると考えております。

2004年09月30日 第29期中間決算短信(連結)を掲載いたしました。 事業報告書(連結)を掲載いたしました。

新着情報の一覧は[こちらをクリック](#)ください。

第29期中間事業報告書

平成16年6月1日から平成16年11月30日まで

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
 この度、第29期（平成16年6月1日から平成16年11月30日まで）の中間事業報告書をお届けいたしますが、社名の由来や事業内容など、当社のご紹介についても併せて記載させていただきます。
 この中間事業報告書を通じて、当社に対する株主の皆様のご理解が深まれば、幸いでございます。
 今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

「ミタチ産業」の名の由来

当社の社名、ミタチ産業株式会社。一風変わった社名であるとお思いになられたのではないのでしょうか？
 この社名の由来について、お話ししたいと思います。

当社は創業以来一貫した経営理念として、顧客第一主義を掲げてまいりました。お客様の満足が会社発展の原動力と考え、当社がお客様と仕入先様をつなぐ架け橋となり、各々のビジネスが成り立つ関係を構築したい、との願いを込めて、「お客様、仕入先様、そして当社（株主様、従業員）の三つで立つ」という精神から、「ミタチ」という名前が生まれました。

それでは、なぜミタチ「電子」ではなく、ミタチ「産業」となったのでしょうか？創業当時から、電子部品を主力としておりましたので、社名に「電子」という言葉をつけることは、ごく自然なことであったかもしれませんが、「電子」という言葉がつくことで、「電子部品しか取り扱いがないのか」という認識が生まれ、ビジネスチャンスを逃すことも考えられました。そこで将来、電子部品の販売だけでなく、ものづくりなど幅広い事業展開ができるよう「産業」という言葉を選び、ミタチ産業という社名が決まりました。

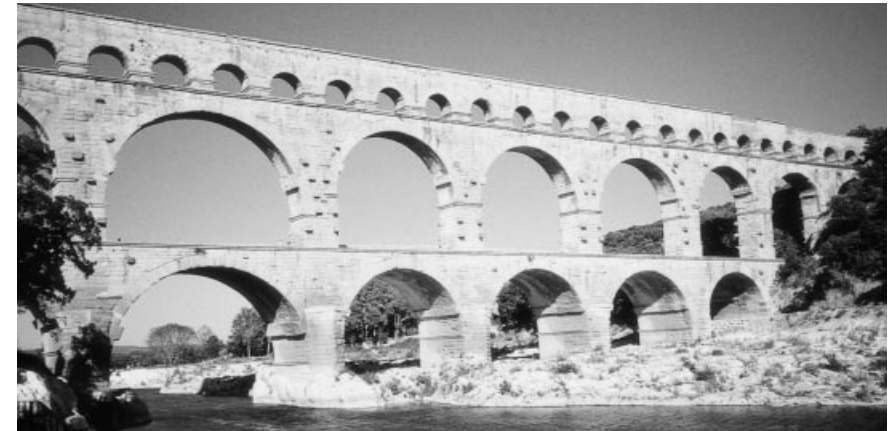
当社設立当時の名刺にはこのように記されておりました。「御社又は貴殿はいま何か欠品その他でお困りでは御座居ませんか？電子部品以外でも御用命下さい。お役に立ちたいと思います。」

お客様を第一に考える当時の熱い思いが伝わってくるようです。



当社設立当時の名刺

当社のシンボルマークについて



「三つ（お客様、仕入先様、当社）で立つ」という三位一体の精神から命名されたミタチ産業。

当社の果たす使命は、お客様と仕入先様の夢と未来をつなぐ重要な架け橋となることです。そして、人の命をつなぐ水を運ぶという大きな使命を果たした、南仏「ガールの水道橋」。

ともに重なる「架け橋」としての使命を全うするため、ミタチ産業の頭文字である「M」とガールの水道橋のアーチの形をモチーフに、当社のシンボルマークは生まれました。



いつまでもお客様と仕入先様をつなぐ「架け橋」として、2000年の時を超えて存在し続けるガールの水道橋のように、いつまでも社会の一員として、その使命を果たしたい。そんな志（思い）をシンボルマークに込めております。

当社の略歴について

当社の前身は、現代表取締役社長の橋至朗が昭和47年9月20日、名古屋市中区向田町において個人でミタチ産業を創業、抵抗器などの電子部品の販売を開始したことに始まります。昭和48年の第1次オイルショックにより、電子部品の価格や物の確保に影響が及びましたが、その時期を好機と捉え、業容の拡大と業績の向上を図り、昭和51年7月2日、名古屋市中区大須四丁目3番46号において、ミタチ産業を組織変更にし、ミタチ産業株式会社を設立いたしました。
 昭和57年5月、現在の本店所在地である名古屋市中区伊勢山二丁目11番28号に本社ビルを建設、移転いたしました。現在では600社を超える優良なお客様と、400社を超える仕入先様に支えられ国内のみならず、海外にもその事業領域を広げております。

ガールの水道橋について

紀元前120年頃、ローマ軍が植民地として建都したニームに豊かなローマの生活を持ち込もうとした時、まず必要となったのが水でありました。そこで、水を重要視したローマ人は聖なる泉といわれていたユゼスにあるユールの泉を源泉に選びました。泉からニームまでは直線距離およそ20kmにすぎませんでしたが、自然の障害物に阻まれ、水を流すために正確な工事が要求されました。幾多の困難を乗り越え、建設された水道の全長は最終的におよそ50kmにも及びました。その水道の一部として、南仏を流れるガルドン川に架けられた橋が、「ガールの水道橋」であります。

（出典：「ポン・デュ・ガール ローマ時代の水道橋」日本語版）

当社グループの事業内容

当社グループの事業領域は、無限の広がりをみせるエレクトロニクス分野です。お客様は自動車、アミューズメントを中心に、OA機器、民生分野など多岐にわたっています。半導体、液晶からハイブリッドカー用駆動・発電モーターまで、幅広い商品、仕入先を有する商社機能と、海外子会社M.A.TECHNOLOGY,INC.での電子デバイス生産、アセンブリなどOEM生産を行っており、メーカー機能を兼ね備えています。



自動車関連分野

カーナビゲーションを中心としたITSなど情報化の進展やハイブリッドカーに代表されるパワーエレクトロニクス分野の拡大など、自動車の電子化は急速に拡大し従来のカーエレクトロニクスの枠を超えた新たなカーエレクトロニクス市場を創出しつつあります。当社は、半導体、液晶からアセンブリへの対応、そしてハイブリッドカー用モーターに至るまで、幅広く自動車分野への販売を強化しています。また、当社の販売する電子部品実装ライン設備は得意先の生産に寄与しております。

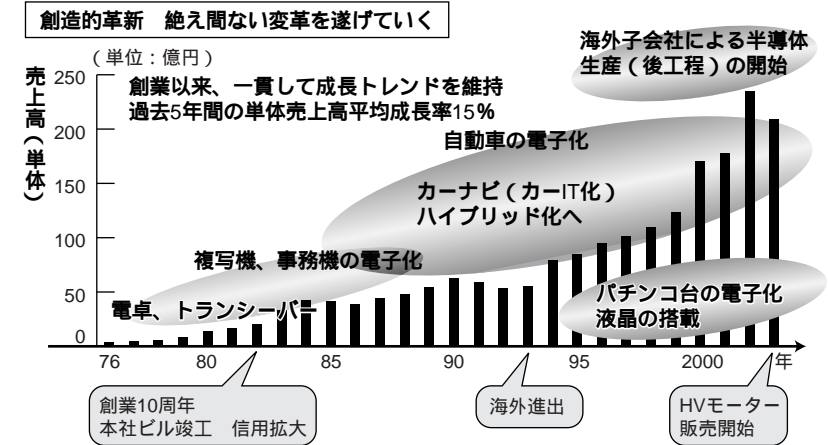
アミューズメント関連分野

法令改正ともなう新しい規格に対応したバリエーション豊富なパチンコ台の登場により、パチンコは新時代を迎え市場の活性化が期待されます。当社は地元のパチンコメーカー様に主に、アセンブリメーカー様など、多くのアミューズメント関連の得意先を有しております。積極的な企画提案により、LEDモジュール、電飾モジュールなどの得意先仕様に合わせた開発品から、液晶、半導体、電子部品など、幅広い商品を販売しています。

オプトデバイス関連分野

当社は半導体商社の枠を超え、オプトデバイス（光半導体）のOEM生産をフィリピンの連結子会社M.A.TECHNOLOGY,INC.にて行っております。クリーンルーム内では多くの半導体生産設備が稼働しており、高度な技術を要する半導体の生産を行っております。平成16年4月には第2工場の別棟も完成し、携帯電話、OA機器などの市場拡大、高機能化によるオプトデバイスの需要拡大に対応しております。

当社の特徴



当社は、設立以来一貫して成長を続けています。時代の流れを的確に読み、時代のニーズにマッチした商品を探求してきた結果、さまざまなお客様、さまざまな製品の電子化に寄与しております。

売側ではなく、お客様の立場で考えること、これは仕入先に縛られない独立系だからできることです。当社では、お客様に最適なソリューションを提供するために、国内外400社を超える幅広い仕入先、外注先を有しており、お客様の製品に使われる半導体・電子部品の大半をカバーできるとともに、お客様の生産に寄与できる優れた生産ライン設備からアセンブリまで、お客様のニーズに一貫して対応しております。

また、当社の営業体制は顧客別営業担当制、すなわちお客様が中心の営業体制です。取扱メーカー別営業体制をとっている商社が多いなか、当社はワンストップサービスを提供できる体制をとっており、密着した営業と幅広い仕入先メーカーの商品を提供することが可能となっております。

アプリケーション別の見通し

アプリケーション	今後の見通し	コメント
自動車		・カーナビの発達（ITSへの対応）によるHDDの搭載率増加、ハイブリッドカーの拡大による新たなパワーエレクトロニクス製品の搭載など、カーエレクトロニクスは大きく拡大
ソリューション		オプトデバイス（海外部門） ・デジタル家電、携帯・通信機器などの在庫調整などにより、下期はオプトデバイス需要は低迷 ・2005年後半には回復を見込む ボードアセンブリ（ソリューション部門） ・カーエレクトロニクス分野のEMS拡大 ・MIU Card事業など技術部門を拡充
アミューズメント		・風営法施行規則等の改正に対応した新基準機により2004年度下期から、回復を見込む ・パチンコ、周辺機器の電子化は拡大 ・アミューズメントビジネスは、ユーザーの人気に左右される懸念がある

中長期の成長性 今期の状況、見通し

第29期中間期（平成16年6月1日から平成16年11月30日まで）営業の概況について

< 全般的概況 >

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善、設備投資の増加などにより堅調に推移いたしました。また、雇用情勢も徐々に改善しており、個人消費においても緩やかに増加しております。

このような経済状況のなかで、当社グループの主要取引先である自動車関連業界につきましては、安全性向上、運転支援機能の発展、カーナビゲーションの高機能化、およびハイブリッドカーの市場拡大などによる、電子部品・デバイスの用途が拡大したことにより、好調に推移してまいりました。また、アミューズメント関連業界につきましては、平成16年7月に施行されました「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行規則」および「遊技機の認定及び型式の検定等に関する規則」の改正に対応した新規規対応遊技機の市場投入が開始されました。

このような状況のもとで、当社グループといたしましては、地道かつ積極的な営業活動を推進するとともに売上原価の低減に努めてまいりました。

その結果、当中間連結会計期間の連結売上高は134億6百万円、利益につきましては売上原価の低減および経営の効率化により、経常利益では4億83百万円、中間純利益では2億97百万円となりました。

< 部門別概況 >

デバイス部門のうち、自動車関連分野は好調に推移いたしました。アミューズメント関連分野においては、法令の改正に伴う新基準機の量産開始により、液晶を中心に回復に向かいつつあります。これらにより、売上高は94億22百万円（前年同期比27.0%増）となりました。

ソリューション部門につきましては、工作機械関連および自動車関連向けアセンブリが好調に推移したことにより、売上高は12億52百万円（前年同期比152.7%増）となりました。

海外部門につきましては、半導体市場が好調に推移したことにより、売上高は22億59百万円（前年同期比33.6%増）となりました。

その他部門につきましては、自動車業界を中心に、チップマウンター（表面実装機）など産業用ロボットが堅調に推移したことにより、売上高は4億71百万円（前年同期比40.8%増）となりました。

< 対処すべき課題 >

当社グループの事業領域であるエレクトロニクス業界は、平成16年秋頃からのデジタル家電等の在庫調整等による直近における半導体市場の不透明感はあるものの、デジタル家電、通信・携帯電話関連機器、カーエレクトロニクス市場等は中・長期的に今後も成長が期待されております。当社グループの主要得意先である自動車業界においてはカーナビゲーション、ITS、ハイブリッドカー等、電気・電子化は着実に進展しており、今後も大きく拡大するといわれております。

このような状況のもと、当社グループは「お客様の満足が当社の繁栄に繋がる」をモットーに顧客第一主義をさらに強化し、新しいビジネスモデルの構築、新規顧客の開拓、新規商材の開発と迅速で的確な情報サービスの提供を目指し、次の諸施策を実施してまいります。

電子化が拡大すると期待される自動車業界への営業力を今後も継続して強化してまいります。

得意先開発部門へ密着し、得意先の製品企画情報の取得精度向上を図り、ハイブリッドカー用駆動・発電モーター、ハードディスクに続く次期重点案件を開拓してまいります。また、物流体制の拡充等、全社をあげて顧客と仕入先との関係構築に全力を尽くしてまいります。

得意先の海外生産に対応すべく、アジア地域にとどまらず、幅広く海外戦略を強化してまいります。

取扱商品の拡充を積極的に図ってまいります。従来の国内メーカーに加え、台湾メーカーを主とする海外製品を取扱商品に加えることにより、より幅広い顧客ニーズに応えることができると考えております。また、パワーエレクトロニクス商品、カメラ、センサーなど急成長が見込まれるカーエレクトロニクス分野向け商材の開拓に努めてまいります。

アセンブリ事業を拡大させるとともに技術対応力、品質体制の強化により、同業他社との差別化を図ります。また、連結子会社M.A.TECHNOLOGY,INC.の生産設備を強化し、新規製品の受託加工を拡大してまいります。

新規商材の確保、営業権の取得、技術への対応等を図るために、優れた商品、マーケットあるいは技術を有する部材メーカー、商社等への投資を行ってまいります。

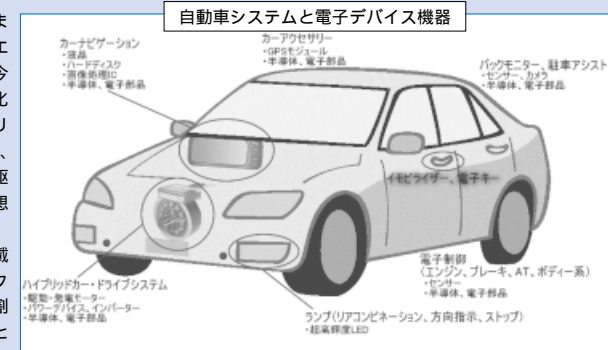
業務改革を推進し、低コスト経営の実現を図ります。業務の全体最適化実現に向けた情報化推進と海外子会社を含めた業務の見直しを積極的に行ってまいります。

カーエレクトロニクスについて

自動車は、「走る・止まる」といった基本機能のエレクトロニクス化から、今後はITSに代表されるIT化が進むとともに、ハイブリッドカー、燃料電池車など、エンジンからモーターへ駆動方式が変わることが予想されております。

このため、自動車に搭載される半導体などのエレクトロニクス製品の占める割合は今後大きく拡大するといわれております。

当社では、長年にわたって自動車の電装化に寄与すべく取り組んでおり、幅広い半導体・電子部品機器メーカーの優れた商品、最適なシステムの提案を行ってまいりました。この結果、トヨタ系自動車部品メーカーを主に、多くの液晶、半導体、電子部品、ハイブリッドカー用駆動・発電モーター、ハードディスク等を採用いただいております。



中間貸借対照表

(平成16年11月30日現在)

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	9,110,466	流動負債	6,917,655
現金及び預金	921,985	支払手形	1,726,173
受取手形	835,544	買掛金	2,503,849
売掛金	5,445,680	短期借入金	1,800,000
商品	1,727,292	一年以内返済予定長期借入金	505,180
仕掛品及び貯蔵品	3,829	未払金	65,275
前渡金	4,952	未払費用	23,726
前払費用	20,521	未払法人税等	188,800
繰延税金資産	56,454	前受金	197
短期貸付金	51,200	預り金	5,807
その他の流動資産	44,143	前受収益	4,634
貸倒引当金	1,138	賞与引当金	89,233
固定資産	2,278,784	その他の流動負債	4,780
有形固定資産	809,431	固定負債	626,292
建物	306,820	社債	500,000
構築物	3,475	長期借入金	87,600
車両運搬具	5,985	その他の固定負債	38,692
工具器具備品	51,739		
土地	441,410	負債合計	7,543,948
無形固定資産	156,503	資本の部	
営業権	13,741	科目	金額
借地	38,578	資本金	521,600
ソフトウェア	24,817	資本剰余金	572,400
ソフトウェア仮勘定	76,615	資本準備金	572,400
その他の無形固定資産	2,751	利益剰余金	2,751,403
投資その他の資産	1,312,849	利益準備金	12,500
投資有価証券	71,620	任意積立金	2,230,000
子会社株式	405,052	別途積立金	2,230,000
長期貸付金	48,600	中間未処分利益	508,903
長期前払費用	2,051	株式等評価差額金	100
破産更生債権等	2,244	資本合計	3,845,303
差入保証金	757,894	負債・資本合計	11,389,251
その他の投資その他の資産	35,940		
貸倒引当金	10,554		
資産合計	11,389,251		

中間損益計算書

(平成16年6月1日から平成16年11月30日まで)

(単位：千円)

科目	金額
(経常損益の部)	
営業損益の部	
営業収益	12,980,434
売上高	12,980,434
営業費用	12,593,091
売上原価	11,777,484
販売費及び一般管理費	815,606
営業利益	387,343
営業外損益の部	
営業外収益	73,032
受取利息	6,973
仕入割引	30,746
その他の営業外収益	35,312
営業外費用	22,515
支払利息	10,135
為替差損	9,337
その他の営業外費用	3,041
経常利益	437,859
(特別損益の部)	
特別利益	442
固定資産売却益	442
特別損失	651
固定資産除却損	651
税引前中間純利益	437,651
法人税、住民税及び事業税	183,733
法人税等調整額	2,004
中間純利益	255,921
前期繰越利益	252,982
中間未処分利益	508,903

中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書

(単位：千円)

中間連結貸借対照表	第29期中間 (平成16年11月30日現在)	第28期 (平成16年5月31日現在)
<資産の部>		
現金及び預金	1,105,361	1,004,825
受取手形及び売掛金	6,270,082	5,019,119
たな卸資産	1,825,207	1,930,679
その他流動資産	126,006	194,345
貸倒引当金	1,102	904
(流動資産合計)	9,325,555	8,148,065
有形固定資産計	1,098,022	1,057,872
無形固定資産計	156,503	118,875
投資その他の資産計	865,989	891,994
(固定資産合計)	2,120,514	2,068,742
資産合計	11,446,070	10,216,807
<負債の部>		
支払手形及び買掛金	4,240,758	3,230,350
短期借入金及び1年内返済長期借入金	2,305,180	2,088,684
未払法人税等	190,471	132,357
その他流動負債	234,186	251,372
(流動負債合計)	6,970,596	5,702,764
社債	500,000	500,000
長期借入金	87,600	198,700
その他固定負債	38,692	46,057
(固定負債合計)	626,292	744,757
負債合計	7,596,889	6,447,521
<少数株主持分>	4,183	3,697
<資本の部>		
資本金	521,600	521,600
資本剰余金	572,400	572,400
利益剰余金	2,722,770	2,638,111
その他有価証券評価差額金	100	19,221
為替換算調整勘定	28,327	14,254
資本合計	3,844,997	3,765,588
負債、少数株主持分及び資本合計	11,446,070	10,216,807

中間連結損益計算書	第29期中間 (平成16年6月1日から平成16年11月30日まで)	第28期 (平成16年6月1日から平成16年5月31日まで)
売上高	13,406,547	21,513,822
売上原価	12,091,251	19,129,414
売上総利益	1,315,296	2,384,408
販売費及び一般管理費	885,734	1,523,802
営業利益	429,562	860,606
営業外収益	71,781	112,960
うち受取利息配当金	8,163	10,026
営業外費用	18,246	146,948
うち支払利息	15,193	31,029
経常利益	483,096	826,618
特別利益	442	13,704
特別損失	651	1,314
税金等調整前中間(当期)純利益	482,887	839,008
法人税、住民税及び事業税	186,794	345,502
法人税等調整額	2,130	480
少数株主利益	298	3,176
中間(当期)純利益	297,925	489,848

部門別売上高(連結)

(単位：百万円)

部門	平成17年5月期(中間)		平成16年5月期(中間)
	売上高	前年同期比	売上高
デバイス部門	9,422	+27.0%	7,417
ソリューション部門	1,252	+152.7%	495
海外部門	2,259	+33.6%	1,691
その他部門	471	+40.8%	335
合計	13,406	+34.9%	9,940

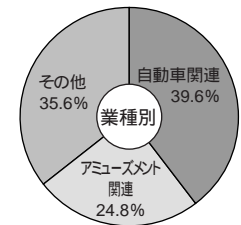
- デバイス部門
 - ・自動車向けが好調に推移
 - ・アミューズメント向けビジネスは、新基準機の立ち上がりにより液晶を中心に回復へ
- ソリューション部門
 - ・工作機器向け、自動車向けEMSが大きく増加
 - ・MIU Card事業譲受による売上増加
- 海外部門
 - ・M.A.TECHNOLOGYのオプトデバイス生産増加
- その他部門
 - ・電子部品実装ラインの設備投資が回復

業種別売上高(連結)

(単位：百万円)

業種	平成17年5月期(中間)		平成16年5月期(中間)
	売上高	前年同期比	売上高
自動車関連	5,312	+54.4%	3,441
アミューズメント関連	3,326	+1.3%	3,282
その他	4,767	+48.3%	3,215
合計	13,406	+34.9%	9,940

- 自動車関連
 - ・ハイブリッドカー用駆動・発電モーターの販売本格化
 - ・カーナビ向け液晶、自動車向けEMSは好調に推移
 - ・半導体、電子部品は堅調に推移
- アミューズメント関連
 - ・アミューズメント向けビジネスは、新基準機の立ち上がりにより液晶を中心に回復へ
- その他
 - ・M.A.TECHNOLOGYのオプトデバイス生産増加
 - ・工作機械向けEMSが好調に推移

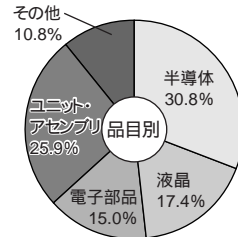


品目別売上高（連結）

（単位：百万円）

品目	平成17年5月期（中間）		平成16年5月期（中間）
	売上高	前年同期比	売上高
半導体	4,127	+8.5%	3,803
液晶	2,333	+19.6%	1,950
電子部品	2,015	+23.3%	1,634
ユニット・アセンブリ	3,475	+84.5%	1,884
その他	1,454	+118.2%	666
合計	13,406	+34.9%	9,940

- 半導体
 - ・自動車向けが好調を維持
- 液晶
 - ・アミューズメント向けは回復へ
- 電子部品
 - ・カーナビ向けは好調を維持
- ユニット・アセンブリ
 - ・自動車向けが好調を維持
 - ・M.A.TECHNOLOGYのオプトデバイス生産増加
- その他
 - ・工作機器向け、自動車向けEMSは好調
 - ・ハイブリッドカー用駆動・発電モーターの販売本格化
 - ・電子部品実装ラインの販売は堅調



トピックス

「エスケープ・ハイブリッド」がカー・オブ・ザ・イヤー受賞
 当社の販売するハイブリッドカー用駆動・発電モーターを搭載したフォード社「エスケープ・ハイブリッド」が、2005年に米国カー・オブ・ザ・イヤー（トラック部門）を受賞いたしました。
 ハイブリッドカー市場は急速に拡大しており、当社といたしましては今後ともお客様、仕入先メーカーと一体となって優れた製品を市場に供給してまいります。



カーナビゲーション向けハードディスクの納入開始
 カーナビゲーションなどの車載情報端末機器は、ナビゲーション機能にとどまらず、音楽・映像などのデジタルコンテンツへの対応が始まっており、今後ハードディスクの搭載が期待できる市場であります。
 当社は平成16年6月からカーナビゲーション向けにハードディスクの販売・納入を開始しており、今後の販売拡大に注力してまいります。



組込コンピュータ市場への参入
 FAから情報端末まで、幅広い用途に対応できる超小型ボードコンピュータMIU Cardをコアに、組込コンピュータ市場への参入をいたしました。開発・営業体制の強化を図り、事業の拡大を目指してまいります。
 また、ソリューション事業の拡大、海外モジュール製品の販売などにおいても、MIU Card部門の持つ技術力が相乗効果を生むと考えております。



パチンコ向け電飾モジュールの販売開始
 新基準機に対応した電飾モジュールの販売を開始いたしました。数多くのLEDランプを搭載し、樹脂成形まで対応した電飾モジュールは、従来から販売しておりますLEDなどの装飾用ランプと比べ、より高い付加価値をお客様に提供できると考えております。

フィリピンの製造子会社 M.A.TECHNOLOGY,INC.第2工場増築・稼働開始
 当社連結子会社M.A.TECHNOLOGY,INC.の生産能力向上を目的として、平成16年4月に第2工場を増築いたしました。

これにより、M.A.TECHNOLOGY,INC.の工場床面積は63%増床し、約6,300㎡になりました。
 なお、M.A.TECHNOLOGY,INC.では、主にLED、フォトIC等オプトデバイス製品のOEM生産を行っております。



IR展示会・投資家セミナーへの参加
 当社では、株主の皆様、投資家の皆様に当社をご理解いただける機会を積極的に増やしていきたいと考えております。
 名証IRエキスポ2004（平成16年7月 名古屋国際会議場）ノムラ資産管理フェア（平成16年9月 名古屋国際会議場）への出展、仕事帰りにご参加いただいたイブニングセミナー（平成16年9月 名証MICホール）への参加を行ってまいりました。当社ブースに多くの株主の皆様、投資家の皆様にお越しいただきましたことを感謝申し上げます。



会社の状況（平成16年11月30日現在）

会社名 ミタチ産業株式会社
 本社所在地 名古屋市中区伊勢山二丁目11番28号
 設立年月日 昭和51年7月2日
 資本金 5億2,160万円
 従業員数 122名

取締役および監査役

代表取締役社長	橘	至	朗
専務取締役	井	上	銀二
常務取締役	毛	利	忠年
取締役	伊	藤	洋
取締役	堀	江	義宏
取締役	熊	谷	豊
取締役	奥	村	浩文
取締役	片	桐	英
常勤監査役	野	中	勤
監査役	清	水	哲二
監査役	安	藤	憲助

株式の状況（平成16年11月30日現在）

会社が発行する株式の総数 16,000,000株
 発行済株式の総数 7,350,000株
 (注)平成16年4月21日付をもって公募新株式の発行により、発行済株式は1,200,000株増加いたしました。
 株主数 3,633名
 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数	議決権比率
	株	%
橘 至 朗	1,490,000	20.27
ミタチ産業従業員持株会	639,150	8.69
井 上 銀 二	450,000	6.12
橘 和 博	400,000	5.44
橘 地 平 子	350,000	4.76
株式会社UFJ銀行	250,000	3.40
岩 成 一 郎	165,000	2.24
山 内 昭 雄	165,000	2.24
日本トラステイ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	132,900	1.80
野 中 勤	120,000	1.63

株主メモ

決算期 毎年5月31日
 定時株主総会 毎年8月
 基準日 毎年5月31日（その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。）
 株主確定日 利益配当金 毎年5月31日
 なお、中間配当を実施するときの中間配当金受領株主確定日は11月30日です。
 名義書換代理人 東京都港区芝三丁目33番1号
 中央三井信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号
 中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店証券代行部
 電話(052)262-1520(代表)
 同取次所 中央三井信託銀行株式会社 本店および全国各支店
 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
 1単元の株式数 100株
 証券コード 3321
 上場証券取引所 東京証券取引所市場第二部、名古屋証券取引所市場第二部
 公告掲載新聞 日本経済新聞
 なお、貸借対照表および損益計算書は当社のホームページ
 (http://www.mitachi.co.jp)に掲載しております。
 お知らせ 住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求および配当金振込指定に必要な
 各用紙のご請求は名義書換代理人のフリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付
 しております。